

## インタビューに寄せて

酒野晶子

東大阪市立郷土博物館の開館間もない頃から、不思議なご縁で中村順平先生の資料と出会い、整理を進めるなかでぜひ資料を展示したいと希望するようになりました。小さい博物館で、少ない人数のなか作業を進めるには時間がかかりました。

資料を管理する中村美奈子さんは、当時70歳代で持病をお持ちでしたので、作業の進め方も遅いものでした。

調査費もない中、すこしずつの時間を積み重ねた資料調査ののち、小さい展示にこぎつけたのは平成3年(1991)でした。19年ほどが過ぎていました。自信がなく迷っていた私を励まして下さった上司や市の文化財保護委員長さんも異動されたり病没されたりで、展示をご覧いただけなかった方もありました。

美奈子さんは展示を喜ばれ、次のステップとして資料を一括して託せる機関を探したいと考えられました。その希望の実現には長く時間がかかりそうです。

美奈子さんは熱心な方でありましたが、気難しい方でもありました。準備中から展示中まで、何人もの関係者の方と出会いましたが、必ずしも全員と関係が良いわけではありませんでした。

美奈子さんも檜の会の方々もご高齢になられ、資料の受入れ先を探しておられた時期がちょうど重なったようです。私の方は、伊藤廣之さん(当時、大阪歴史博物館学芸課長)にご相談し、檜の会の方は蔵書関係から図書館を経て大阪歴史博物館にたどり着いたとのことでした。

このとき歴博には若手で建築関係資料を専門とする酒井一光学芸員がおいでになったから実現したと私は思いました。大きい組織の博物館が決断して下さったことに深く感謝いたしました。

酒井さんは、私の子供と言ってもいいぐらいの若手の学芸員でした。大阪市内の建築資料を精力的に調査研究され、展示に生かされました。またタイルについても深く研究されていました。

一括寄贈にむけて資料調査に酒井さんと中村家にお伺いした折、気難しい美奈子さんが担当の酒井さんを受け入れて下さるか心配でした。しかし、熱心で優秀でお人柄も穏やかな酒井さんをすぐに美奈子さんは気に入られたようでした。その時は美奈子さんと妹さんはヘルパーさんがお世話に来られる要介護の状態になられていました。以前のようにご自分で資料を次々に出してご説明されることができない状態でした。そこで、許可をいただいて私と酒井さんが作業を始めましたが、後で考えると、美奈子さんはその作業に先頭に立って参加できない事にさびしさを痛感されたようでした。間もなく美奈子さんが調査の延期を希望され、作業を中断し連絡を待ちました。

そんな中でも酒井さんは、檜の会の関係資料で平成19年(2007)に特集展示「生誕120年 大阪が生んだ偉才 建築家・中村順平展」を実現されました。招待を受けた美奈子さんは来館され、たいへん喜ばれていました。作業中断のまま、その後、美奈子さんはお亡くなりになり、現在に至っ

ています。

特集展示ののち、少しずつ檜の会関係の方より資料が寄せられ、資料が充実しつつあるなか、思いがけず酒井学芸員が病を得られてしまいます。寄贈資料の評価の折に時々お目にかかっていますが、詳しいことは存じないままでした。

病はその後も悪化したようで、そんな折、この対談のお話をいただきました。対談の途中も酒井さんは私や参加者の方々に気を遣って下さり、私もできるだけ平静を装っていたつもりでした。

酒井一光さん、中村先生の資料のためにご尽力下さってほんとうにありがとうございました。

どうぞゆっくりおやすみください。